

菱の実

佐賀大学理工学部同窓会会報 第15号



発行日 2013年11月1日

発行菱実会

佐賀市本庄町1 佐賀大学内
TEL 0952-23-1253
FAX 0952-25-5700
E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp
ホームページhttp://dousou.ext.saga-u.ac.jp

編集長 中島道夫

工学系研究科長・理工学部長就任にあたって



工学系研究科教授
石橋 孝治

平成25年10月1日付けで、理工学部第15代の学部長と工学系研究科第2代の研究科長を拝命いたしました。前研究科長の林田教授には2期4年間にわたり重責を担っていただきました。リーダーとしての懸命なる運営の労に感謝いたします。私はこれまで大きな組織の運営に係るオン・ザ・ジョブ・トレーニングを受けて来ておりませんので、不安を抱えながらの船出となりましたが、腹をくくり覚悟をもって、新執行部と力を合わせて理工学部と工学系研究科の教育・研究の持続的発展に真摯に取り組み、これが佐賀大学の発展に繋がるよう努める所存です。

理工学部の沿革は、昭和24年の新制佐賀大学の設置にあたり「文理学部」として発足し、昭和41年の改組をもって「理工学部」が誕生し47年目に至っています。また、大学院については、昭和50年に「工学研究科（修士課程）」が設置され、昭和58年に数学専攻、物理学専攻、化学専攻が加わって「工学研究科（修士課程）」に改称されました。平成3年には、高度な研究能力を有する先導的な人材の育成するために、修士課程を改組し区分制の博士課程（博士前期課程・後期課程）をもつ「工学系研究科」が設置され、博士の学位を授与できる高等教育研究機関となりました。理工融合の理念である「基礎に強い工学系学生、応用に強い理学系学生」を学部から大学院博士まで連なった確固たる教育課程で具現化できる体制が構築されたこととなります。

更に、平成22年4月に工学系研究科を改組し、博士後期課程をこれまでの3専攻を1つの専攻に統合して「システム創成科学専攻」を設置し、広範囲な科学技術の分野における高度な専門教育研究に対応できる体制となりました。博士前期課程は、機能物質化学専攻、循環物質工学専攻を統合して「循環物質化学専攻」とし、理工融合の理念を具現化する体制としました。更に、博士前期・後期課程の一貫制

の独立専攻である「生体機能システム制御工学専攻」を改組して「先端融合工学専攻」を設置し、旧佐賀医科大学と旧佐賀大学の統合で生まれた医工連携研究の成果を大学院教育に反映させる医工学コースと機能材料工学コースが設けられました。

大学院の改組に合わせて、教員組織を工学系研究科に置くこととなりました。知識基盤社会で活躍が期待される高度な専門人材（プロフェッショナル）と高度な研究能力を有する先導的な人材を育成するために、専門知識や技術を深め、それを生かす幅広い教養を育む教育研究指導を行っています。

現在、理工学部の収容定員は2,000人、大学院博士前期と後期課程の収容定員はそれぞれ368人と72人であり、2,500人を超える在學生と185名の教職員からなる大きな理工学部・工学系研究科となっています。

理工学部・工学系研究科は、国際交流に積極的に取り組んできました。世界の国々から留学生を受入れて来ており、現在、理工学部30人、博士前期課程16人、博士後期課程に59人の外国人留學生が在籍し勉学に勤しんでいます。特に工学系研究科では大学院留學生を積極的に受け入れるために、文科省に国費外国人留學生の優先配分を行う特別プログラム（5年時限）に申請し、「国際環境科学特別コース」が、続いて「地球環境科学特別コース」が採択されて大きな実績をあげて来ました。昨年度は日本人留學生の派遣を組んだ「環境・エネルギー科学グローバル教育プログラム」の申請を行いました但不採択となり、内容を精査しブラッシュアップして再申請を行い、受入れプラットフォームの再構築することとしています。また、毎年、外国の大学と共同教育と研究を行う「国際パートナーシッププログラム」を独自に実施してきており、留學生の国際性の涵養とグローバル化対応を強力に推進しています。

我が国のこれまでの成長を支えて来た人々の中に、佐賀大学理工学部・工学系研究科を卒業・修了された社会で活躍している総勢20,000人近い同窓生がおられ、皆様の貢献があったことは間違いありません。我が国は、人口構成の変化によるパラダイム変換が求められ、新たな国のかたちへシフトしてゆくこととなります。有能な人材の育成と輩出を担う理工学部・工学系研究科の発展は、「同窓生の力」、「在學生の力」、「教職員の力」、そして「地域の力」の相乗無くして成し得ません。新たな時代の社会的要請に応えるためには、皆様のご支援が欠かせません。佐賀大学理工学部・大学院工学系研究科の輝かしい学風・伝統を継承し展開して、その教育研究の成果を社会に還元できるように励みますので、変わりないご支援の程、よろしく申し上げます。

数物 情報系

サービスを提供する ためのチームづくり

日立公共システムサービス
川里 孝行

(工学系研究科 知能情報システム学専攻・H12年修了)

私が勤務している日立公共システムサービスは、公共分野の情報システムスペシャリストとして蓄積されたノウハウ・業務・IT技術等を基に、情報システム導入から稼働維持まで、お客様のニーズに応えるサービスを提供することが主な仕事内容です。

弊社に就職したきっかけは、佐賀での6年間の生活を通して、公共性・社会性の高いお客様の役に立ちたいと思ったからです。

佐賀大学で培った論理的思考力と対人折衝力のおかげでしょうか、様々な方の支援の下、失敗しつつも成長させていただき、システム更改プロジェクトリーダー、プロジェクトマネージャーを経て、今年度から24時間365日稼働しているお客様のシステム

オペレーションの作業責任者を行っています。

システム安定運用サービスを提供するためのチームづくりの真っ只中です。

これまで様々な方に導いていただき、導く立場から管理する立場になり、諸先輩方の偉大さを実感する日々です。

もっと若いうちに勉強しておけばよかったと思うこともしばしばですが、前向きに挑戦しています。

ありがたいことに新卒採用活動のために毎年母校を訪ねる機会をいただいています。

訪れるたびに感謝と頑張ろうという気持ちを実感します。

今回は寄稿する機会をいただき、ありがとうございました。

母校の発展を願っています。



化学系

「Future Standard・ 未来標準」を目指して

森田化学工業株式会社 開発部 開発課
山田 憲侍

(工学系研究科 機能物質化学専攻・H21年修了)

“フッ素”は電子工業、空調メーカー、樹脂産業、医農薬などを始め多くの分野に関わりを持つ、大変重要で必要不可欠な元素です。私が勤めている森田化学工業株式会社はこの“フッ素”を扱う会社で、主にフッ化水素酸やその塩類など“フッ素”化合物の製造販売を行っています。

4年前に入社してから現在まで、大阪にある事業所の開発部に在籍しています。新規なフッ素化合物の合成検討や、既存の化合物の新製法検討などが開発部の仕事です。また、限りある資源であるフッ素のリサイクル技術の開発も行っています。在学中の研究はフッ素を含む有機合成でしたので、当時の経験や知識は分野が違っても、貴重な財産となっています。

知識に関して強く感じたことがあります。それは、専門的な知識は言うまでもなく、それ以外の知識が必要と感ずる場面が多々あることです。仕事に沿った知識を得ることは比較的容易ですが、それ以外の知識を得るには相当の努力が必要となってきます。様々な知識を得る自分なりの方法を見つけおくことが必要だと今になって痛感しています。現在は興味のある分野から掘り下げていくことを試しているところ

です。皆さんも色々試してみてください。はいかがでしょうか。

最後に、「今はもちろん、数年、数十年未来の社会と会社の双方にも貢献できる仕事」を目標に頑張っていきたいと思えます。



特集

同窓生の

この特集は、理工学部出身の同窓生(数物情報系大学院グループからそれぞれ1名ずつ)に執筆の「ものづくり」やその思いを通し、みなさんへ届けたいです。

機械系

「ものづくりの現場より」

日立建機株式会社 建設システム開発設計センター
村上 龍広

(工学系研究科 機械システム工学専攻・H18年修了)

私が勤める日立建機という会社は、日本で初めて「油圧ショベル」を開発した日立グループの建設機械メーカーで、売り上げの多くが海外というグローバル企業でもあります。私はその中で設計業務を担当しています。

設計業務というと、3次元CADでのモデリング、図面作成、時にはFEM解析などを皆さん想像されると思いますが、私の会社では現場に出て設計を行う機会が多いです。

開発中は評価している機械の改造などが頻繁にあるのですが、その改造を他部署に依頼して、実際の作業時に立ち会って指示を行ったり、品質保証が行

電気電子系

働いて分かった 行動力と国語力の大切さ

木村情報技術株式会社
橋爪 康知

(工学系研究科 生体機能システム制御工学専攻・H15年修了)

私は平成9年に電気電子工学科へ入学し、博士後期課程まで9年間を佐賀大学で過ごしました。専門分野を学ぶ傍らで、大学3年生の時に受講したベンチャービジネス論がきっかけとなり、起業にも強く興味を持ちました。大学院では、優木民(大学発ベンチャー)という会社で大川市役所のWeb更新システム構築などに携わりました。



その後、博士課程3年次に現在勤務している会社の代表である木村隆

夫氏と出会い、社員第一号として入社することになりました。

入社といっても、何せ社員第一号ですから、何も無いところから仕事を創っていかねばなりません。システム構築を行う一方で、営業企画や研究開発助成金の獲得などにも取り組みました。

最初の2年間は倒産の危機もありましたが、何とか乗り越えられ、3年目からは黒字を継続できています。今では会社も9年目を迎え、人数も70名を超えました。

仕事内容も、eラーニングや動画配信など様々ですが、学生時代に学んだシステム関連の知識はもちろん、論文や学会発表を通して培った文章力も大いに役立っています。

社会に出ると、理系文系を問わず国語力が求められます。社内コミュニケーションやお客さまとのコミュニケーションで必要となるためです。皆さんも時間が取りやすい学生時代のうちに磨いておくと、その後の大きな力になると思います。

学業以外への寄り道も多い学生でしたが、理解して応援して下さった恩師の方々には、本当に感謝しています。

ものづくり

vol.11

情報系、化学系、電気電子系、建設系の学科・
筆をお願いいたしました。綴られる各分野で
んの活動への刺激や新たな交流の機会となれ

建設系

「技術とサービス」

建装工業株式会社
佐藤 友亮

(工学系研究科 都市工学専攻・H23年度修了)

私の勤める建装工業株式会社の事業内容は、①マンションの改修・修繕事業、②新築の塗装事業、③プラント等の重防食事業の主に3つです。その中で、私が所属する部署はマンションの改修・修繕を行う部署です。

この部署の業務で担当する物件は、築10~15年程のマンションです。工事内容は、杭打ちや鉄筋、型枠、コンクリート、鉄骨等の構造躯体に関する工事は殆ど行う事はなく、塗装、防水等の建物の美観や性能を維持、向上させる工事を行います。住民の方々がマンションに居住されたまま工事を施工するという点では、新築工事とはまた違った難しさがあります。

入社する際の社長挨拶で「我々は、工事を施工する技術者であると同時に、マンションの居住者の方々へ対応するサービス業でもある。」という言葉が印象に残っています。この言葉の様に、「技術」と「サービス」という2つを少しでも身につける事のできる様に努めていきたいです。



また、企業としては、東京スカイツリーの建設に特殊塗装等で携わるなど、国家プロジェクトにも参加していますので、2020年の東京オリンピックの新スタジアム建設の参画も可能性があるのではと思っています。

う試験に不合格になった場合には現物を見ながら対策案を検討したりします。

また、先日は海外で製造・開発を行う機械の試作機の製作にあたって、現地に出張して直接やりとりを行うこともあったり、時には調達部門や原価管理部門と協力して車体の原価を下げることも検討したりします。



設計業務の内容は幅広く、大学で学んだ知識が必要になる時期も時折あります。あまり得意でない分野を担当したときは復習に時間を要したので大変でした。

ものづくりとしては、まず製品として成立させることが第一なのですが、その次に製品に対してお客様が必要としている付加価値をできるだけつけたいと思っています。お客様から「いいね」とのコメントをもらえるよう、目標に日々業務に励んでいます。

事業計画

1. 会報の発行及び送付
2. 会員の拡大
3. 同窓会名簿の管理と更新
4. 同窓会支部活動
 - * 理工学部同窓会支部活動強化
 - * 理工学部同窓生へ支部会参加を要請
5. 就職援助活動
 - * 理工学部就職懇談会への支援
 - * 理工学部スタートアップセミナー（新入生対象）
6. 各種情報の提供
7. 理工学部50周年に向けての事業
 - * 理工学部50周年誌の発行
 - * 佐賀大学の建物の変遷（3CG）創設時から最近の状況
8. 佐賀大学及び他学部同窓会と連携
9. 単位提供講座の実施
 - * キャリアデザイン支援
10. その他の事業
 - * 在学同窓生への援助
 - * 卒業生への援助

平成25年度 第15回 菱実会総会の報告

平成25年8月9日(金)佐賀大学「菱の実会館」で、総会が開催され、平成24年度事業及び決算報告と平成25年度事業計画と予算が報告された。

第9回 佐賀大学理工学部 学生表彰式

平成25年4月4日(木)理工学部1号館地域連携デザイン工房にて理工学部学生表彰式が行われた。
学生表彰は、2年次及び3年次の学生で成績が優秀であると認められた学生に対し、各学科から2名合わせて14名が表彰され、同窓会（菱実会）からは、図書カードが贈られた。



(平成24年度 学生表彰)

(敬称略)

学 科	2年 (11)	3年 (10)
数理科学科	五百旗頭 学	江 頭 明 佳
物理科学科	山 口 義 隆	安 武 滉 大
知能情報システム科学	神 近 剛 明	藤 木 沙 衣
機能物質化学科	内 山 未 有	林 由佳子
機械システム工学科	田 中 雅 哉	上 野 聡 士
電気電子工学科	住 山 貴 史	佐 藤 未 波
都市工学科	張 鑫	住 吉 栄 作

7期役員名簿

(平成24年4月1日)
} (平成26年3月31日)

(敬称略)

会長	秋 永 正 幸(機械45卒)
副会長	田 中 正 和(化学48卒)
副会長	椿 忠 彦(物理53卒)
理事(庶務幹事)	穂屋下 茂(機械49卒)
理事(庶務)	津 留 保 生(電気H1卒)
理事(庶務)	深 井 澄 夫(電子53卒)
理事(庶務組織)	米 満 潔(化学60卒)
理事(広報)	中 島 道 夫(化学47卒)
理事(広報)	磯 野 健 一(工化62卒)
理事(広報)	帯 屋 洋 之(建設H4卒)
理事(会計)	前 山 道 明(機械46卒)
理事(会計)	田 口 光 雄(電気50卒)
監事	高 崎 光 浩(化学60卒)
監事	池 上 康 之(生機61卒)

理工学部同窓会 美術館寄附目録贈呈

平成25年8月29日(木)理工学部同窓会会長秋永正幸氏より佐賀大学



佛淵学長へ寄附金壹千萬円の目録を贈呈した。

平成25年9月28日(土)佐賀大学統合10周年記念事業の記念祝賀会にて感謝状を受けた。



菱実会の動き

H24
10月

H25
10月

- H24. 10. 12 理工学部同窓会「役員会」
H24. 10. 27 筑後支部総会・懇親会／ランヴィエール勝島
H24. 10. 27 諫早支部総会・懇親会／L&Lホテルセンリユウ
H24. 11. 1 理工学部同窓会会報「菱の実」No.14号発行
H24. 11. 14 キャリアデザイン講座／講師 大中勝博氏（S48卒・数学）
H24. 11. 17 大分支部総会・懇親会／ホテルキャッスル大分
H24. 11. 17 山口支部総会・懇親会／美称市秋吉台家族旅行村
H24. 11. 17 佐世保支部総会・懇親会／佐世保レオプラザホテル
H24. 11. 18 東京支部総会・懇親会／新宿ワシントンホテル
H24. 11. 21 キャリアデザイン講座／講師 津留保生氏（H4卒・電気）
H24. 11. 21 「理工学部と理工学部同窓会との意見交換会」／ニューオータニ佐賀
H24. 12. 4 理工学部就職懇談会への支援
知能情報システム学科 講師 藤井智士氏(H19卒)・福崎真以氏（H22卒）
H24. 12. 12 理工学部就職懇談会への支援
電気電子工学科 講師 中島善康氏（S62卒）・松本晋一氏（H6卒）

- H25. 1. 25 理工学部就職懇談会への支援
機械システム工学科 講師 佐藤 功氏（H11卒）・斉藤 淳氏（H11卒）
H25. 1. 25 理工学部同窓会「役員会・新年会」
H25. 1. 31 理工学部就職懇談会への支援
機能物質化学科 講師 井上大誠氏（H21卒）
H25. 2. 8 理工学部就職懇談会への支援
物理科学科 講師 内山秀元氏（H19卒）
H25. 3. 28 理工学部同窓会「役員会」
H25. 4. 4 理工学部学生表彰 同窓会より会長賞贈呈
H25. 4. 5 理工学部同窓会 新入生スタートアップセミナー説明会
H25. 4. 11 理工学部同窓会 新入生スタートアップセミナー（4日間～28）
H25. 6. 6 理工学部同窓会「役員会」
H25. 7. 12 福岡地区支部総会・懇親会／西新パレス3階ホール
H25. 7. 17 理工学部同窓会「役員会」
H25. 8. 9 理工学部同窓会第15回総会・懇親会／佐賀大学「菱の実会館」
H25. 8. 29 理工学部同窓会美術館寄附目録贈呈
H25. 9. 10 理工学部同窓会会報「菱の実」No.15号編集会議
H25. 10. 26 諫早支部総会・懇親会／L&Lホテルセンリユウ
H25. 10. 26 大分支部総会・懇親会／大分アリソンホテル

事務局では会員皆様方からのご寄稿をお願いしています。理工学部に関する昔の思い出や、現在の会社のPRなど、事務局宛にご連絡下さい。皆様方からのご寄稿を心よりお待ちしております。